

諏訪山医王院昌松寺であった井野台の薬師堂、相馬霊場第 23 番の札所

白山に建立された諏訪山昌松寺は、江戸時代に井野台へ移った先が、現在の井野台の薬師堂がある所といわれる、だが現在の昌松寺は、83 番と共に井野へと移っている。

寺の引越しで、相馬霊場第 83 番札所は二つ現存する。

一つは白山諏訪宮の第 83 番札所であり、もう一つが昌松寺境内にある 83 番である。

現住職は、当然として「境内にある札所が本来の 83 番です」と説明された。

しかし、住職は、「医王院」という院号に疑問を抱いた話しをされた。

井野台の薬師堂が昌松寺跡であるのに、現在の昌松寺は、阿弥陀三尊が本尊であることつまり井野台から井野に移った時に、薬師如来を置いて来たのであります。

相馬霊場第 83 番に於いても、白山から井野台に昌松寺が移った時に、札所を置いてきたのではと勘ぐりましたが、しかし事態はもっと深刻でした。

取手市史の民族編では、逸話として、昌松寺が諏訪山(白山)から井野台に移した時、「寺を受け継いだ住職にたいして、23 番と 83 番の二つの霊場に反感した身内の者が札所を元の白山へ戻した、」とありました。それが檀家や当時の人々の共感を受け、更に白山の札所に賛同者が増えることとなり、現代に至っているようでした。

井野台の薬師堂内に残った、薬師如来と脇侍そして 12 神像は取手市内に於いては最たる仏像であると思います、江戸時代?の創作とされる歴史深い彫刻の面影を残しています。

脇侍の破損が惜しまれます、又、薬師立像の造形が珍しいです。ご開帳は、四月八日。

以前に断りもなく、これらの仏像を撮影していたので紹介したいと思います。

本尊の薬師如来は、最終ページに掲載してあります。



右脇侍の日光菩薩

左脇侍の月光(がっこう)菩薩

脇侍(きょうじ、わきじ)の像高は、おおよそ 1 m 程です。

十二神将像の大将の仏名。



十二神像は、像高 70 cm程であり、脇侍同様ガラスケースに収まっています。

	名称	十二支	月将	本地仏
1	金毘羅大将	亥	微明	弥勒
	宮毘羅大将は一般には「金比羅(こんびら)様」の名前で親しまれています。 金比羅様の中核は四国の象頭山・金比羅大権現・金刀比羅宮です。			
2	和耆羅大将	戌	阿魁	得大勢 (勢至)
3	彌伽羅大将	酉	従魁	阿弥陀
4	安陀羅大将	申	傳迭	摩利支天
5	摩尼羅大将	未	小吉	観音
6	宗藍羅大将	午	勝先	虚空蔵
7	因特羅大将	巳	太一	地藏
8	婆耶羅大将	辰	天岡	文殊

9	摩休羅大将	卯	大衡	薬師
10	真陀羅大将	寅	功曹	普賢
11	照頭羅大将	丑	大吉	金剛手
12	毘伽羅大将	子	神后	釈迦（または陀羅尼）

彼らは、2時間交代で薬師如来と両脇侍を守護しているという。

井野台薬師堂の薬師如来立像、



Copyright © 2006 Shin-Shikoku Souma 88. All Rights Reserved

アングルを下げての撮影でしたが、頭部の一部がどうしても入りませんでした。

薬師如来信仰は飛鳥時代には始まっており、聖徳太子が用明天皇の病氣平癒のため薬師如来像造立、奈良時代には天武天皇が皇后の病氣平癒のため薬師寺建立を発願されるなど万病を治す仏として広まりました医師の仏です。

平安時代になって天台密教、真言密教が盛んになると比叡山延暦寺、高野山金剛峯寺の本尊も薬師如来が祀られるようになりました。

薬師如来は、右手は施無畏印(せないいん、安心の印)、左手は与願印(よがんいん、願いを叶える印)で、薬壺(やっこ)を持つのが平安時代以降の造りとなりました。

薬壺がなければ釈迦如来と区別が難しいですが、単独で祀られることは少なく、脇侍として日光菩薩と月光菩薩を、また四天王や十二神将を従えたりしています。

代表的な薬師像は、奈良の薬師寺の薬師如来座像で、国宝です。

2006年7月記、kumaken